

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月13日(水)
児童 男子6名 女子7名 計13名
指導者 教諭 山本 秀子

- 1 単元名 すきなものをしらせるね
教材名 「ぼくんちの ゴリ」「よく見て かこう」

2 単元について

(1) 単元の主目標

学習指導要領国語科1・2年生の「書くこと」に関する目標は、「経験したことや想像したことなどについて、順序がわかるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。」である。その中でも特に、内容のイ「書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」と内容のオ「文章を読み返す習慣を付ける」とともに、間違いなどに注意すること」を中心に指導するために本単元を設定した。

主目標は、「自分が書こうとするものについてよく観察し、相手に自分の知らせたいことが良く伝わるように書くことができる。」である。その他に、言語事項ウ(イ)「句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと」についても単元の学習を通して指導していく。

(2) 単元について

本単元では、自分の好きなものを友達や家の人に紹介するために、よく観察して、文章を書く学習を行う。相手に読んでもらい、その内容を伝えるために、知らせたいと思うものを様々な視点でよく見て、その特徴について取材する。そして、取材したことをもとに文章の組み立てを考えたり、表現を工夫したりする。書いた文章は推敲し、表記や表現を見直して、必要に応じて修正する。そういう、書くことの基本となる学習の初歩を行う単元である。

(3) 子供の実態

子供たちはこれまでに、「ことばをいれて、ぶんをつくろう」の中で、主語と述語の関係に注意して文を作るという学習をしてきた。また、「は、を、へをつかってかこう」では、助詞の使い方を理解し、それを使って文を作る学習をしてきた。さらに、「てがみをかこう」では、相手に伝えたいことを手紙という形で文に書く学習もしてきている。また、日常においては、生活科の学習の記録や感想、日記などを書いたり、読み合ったりしてきている。

これらの学習を通して、子供たちは、体験したことやその時思ったことを簡単な文に表すことに少しずつ慣れてきており、句読点を使って文を書く子供も増えてきている。しかし、まだ自分の書いた文を読み直すということは少なく、助詞や拗音、長音、促音などの表記が間違っていることも多い。また、書くことが思い浮かばず、なかなか書き出せないでいる子供も見られる。

(4) 単元と子供の関わり

本単元では、教材「ぼくんちの ゴリ」を楽しく読み取りながら、子供たちは、書く対象について、どのような視点で観察すればよいのかを学ぶことができると思われる。また、「よく見て書こう」は、作文例の中に会話文が使われており、初めてかぎ(「」)の学習する子供たちにとって、良い参考例となっている。

この2つの教材から学んだことを生かしながら、自分の好きなものについてよく観察させ、相手によくわかるような文章を書く活動を行うことによって、目的や相手に応じた文章を書く力をつけていきたいと考える。

(5) 指導にあたって

単元の導入にあたっては、自分の好きなものや大事にしているものを学級の友達に紹介すること、出来た作文を文集にして家の人に読んでもらうことを知らせることで、目的意識・相手意識を明確にし、学習への意欲化を図る。

本時では、「すきなものカード」のメモをもとに、相手にわかりやすい文を短冊カードに書く。短冊カードを活用することによって、主述を意識させながら文を作らせるとともに、組み立てを考える学習(次時)にもつなげていけるようにしたい。

評価活動においては、書いた文章を学級のみんなに紹介し、感想を交流し合ったり、文集にして家の人に読んでもらったりすることで、書く喜びを感じさせ、これからの意欲につなげていきたい。

3 単元指導目標

単元の主目標

自分が書こうとするものについてよく観察し、相手に自分の知らせたいことが良く伝わるように書くことができる。

【国語への関心・意欲・態度】

自分の好きなものを知らせることに関心を持ち、進んで知らせたいものについて文章を書く意欲を持つ。

【書くこと】

自分が書こうとするものについてよく観察し、相手に伝えるために必要な事柄を集めることができる。 (書イ)

相手に知らせたいことが書けたか、読み直す。 (書オ)

事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書く。 (書エ)

【言語事項】

句読点の使い方やかぎ(「 」)の使い方を理解し、文の中で使う。 (言語ウ(イ))

4 単元指導計画 (10時間)

過程	時間	主な学習活動	評価規準
第1次	1	単元のねらいを知り、見通しを持つ。 ・新出漢字の学習をする。	友達や家の人に好きなものを知らせようという意欲を持っている。【関】 漢字や語句について理解している。【言】
	2	「ぼくんちの ゴリ」を読む。 ・ゴリについて知らせている部分を見つける。	ゴリについて知らせようとしているところを見つけようとしている。【関】 ゴリについて知らせるために必要な事柄に気付いている。【書】
	3	「ゴリカード」を作る。 ・ゴリの特徴や動作を「ゴリカード」に書く。	ゴリの特徴や動作を見つけようとしている。【関】 ゴリの特徴や動作をカードに書いている。【書】 主語と述語の関係を理解している。【言】
第2次	4	「よく見て書こう」の作文例から、書き方を学ぶ。	2つの教材文の類似点や相違点を進んで見つけようとしている。【関】
	5	・「ぼくんちのゴリ」と比べ、類似点や相違点を見つける。 ・かぎ(「 」)の使い方を知る。	2つの教材文の類似点や相違点に関心を持っている。【書】 句読点やかぎ(「 」)の使い方を理解している。【言】
	6	自分の知らせたいものを決め、「好きなものカード」を書く。 ・好きなものの絵を描く。 ・好きなものの特徴をメモする。	知らせたいことをカードに書こうとしている。【関】 好きなものについて様々な視点で観察したことをカードに書いている。【書】
第3次	7 本時	「好きなものカード」をもとにして ・相手にわかりやすい文を短冊に書く。	「好きなものカード」をもとに、相手にわかりやすい文を作ろうとしている。【関】 語と語のつなぎ方に気をつけて相手にわかりやすい文を書いている。【書】 句読点やかぎ(「 」)を使って文を書いている。【言】
	8	短冊をもとに、みんなに知らせる文章を書く。 ・短冊を並べて、書く順序を考える。 ・書き出しを考えて文章を書く。	知らせたいことを文章に書こうとしている。【関】 書く順番を考えながら、知らせたい事柄を文章に書いている。【書】 句読点やかぎ(「 」)を使って書いている。【言】
第3次	9	「好きなもの文集」を作る。 ・できた文章を読み直し、間違いを直す。	自分の書いた文章を見直し、仕上げようとしている。【関】 文章を見直して、句読点やかぎ(「 」)の使い方や、表記などを確かめている。【書】
	10	「好きなもの発表会」をする。 ・作文を発表する。 ・感想を発表し合う。	書いた文章を発表し、好きなものを知らせようとしている。【関】 友達の文章のよさを見つけて、感想を書いている。【書】

5 本時の指導

(1) ねらい

【書くこと】 「すきなもののカード」のメモをもとに、相手にわかりやすい文を短冊に書くことができる。

(2) 本時の展開 (7 / 10 時間)

過程	学 習 活 動	・ 指導上の留意点 評価
つ か む 10	<p>1 学習課題の把握 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>すきなもののカードのメモを、みんなにわかりやすいぶんにしよう。</p> </div> <p>2 視点の確認 わかりやすい文を書くための視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの短冊に一つのことを書く。 ・、や。をつける。 ・吹き出し部分は、かぎ(「 」)を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返りながら、本時は、自分の好きなものをみんなに教えるために、「すきなもののカード」のメモをわかりやすい文にして短冊に書くことを確認する。 ・教師が書いた短冊の文を提示し、わかりやすく書くための視点を理解させる。
ふ か め る 30	<p>3 記述 視点に気をつけながら、文を書く。</p> <p>書いた文は、小さな声に出して、読み返す。</p>	<p>「すきなもののカード」のメモをもとに、相手にわかりやすい文を短冊に書いている。</p> <p>A 語と語のつなぎ方に注意して、メモをふくらませながら、相手にわかりやすい文を短冊に書いている。短冊を4枚以上書いている。「 」を正しく使いながら会話文を書いている。句読点をつけている。一つのことを2文以上で書いている。</p> <p>B 語と語のつなぎ方に注意して、相手にわかりやすい文を短冊に書いている。短冊を3枚程度書いている。「 」を使いながら会話文を書いている。句読点をつけている。</p> <p>⊙ 書き方がわからない子供には、聞き取りをしながら、文作りを支援する。</p> <p>一緒に「すきなもののカード」のメモを見ながら、聞き取りをし、主語・述語の文を口頭で作らせてから、短冊に書くよう助言する。(個人診断票から)</p>
ま と め る 5	<p>4 本時の学習のふり返り 書いた文を交流し合い、友達の表現の良さを見つける。</p> <p>相互評価 自己評価</p> <p>5 次時の確認 次時の学習の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の書いた短冊を紹介し、書き方の良い所に気付かせる。 ・「ふりかえりカード」で、書くときの視点に即して自己評価をさせ、次への意欲につなげる。視点に即して評価することができる。(評価カード) ・次時は、カードを順序よく並べて作文にすることを知らせる。